

2009年11月4日
東日本旅客鉄道株式会社

「地域再発見」プロジェクト推進中！

～ 地元発。とれたての感動！ 地元が提案する旅 冬の「旅市」13コースを11月10日発売開始！～

JR東日本では、今年5月より、地元の人が考え、ご案内する新しい旅行商品ブランド「旅市(たびいち)」の発売を開始しました。

今回は11月10日に発売となる冬の「旅市」の魅力をお知らせいたします。

「旅市」の考え方に共鳴した多くの地域の方々が、自分たちの住む土地の魅力を再発見し、積極的な提案をいただけるようになり、コース数・内容共に充実しました。

長い冬を過ごすために培われた「生活の知恵」が、冬の「旅市」には散りばめられています。例えば、小雪舞う港町で、心をほっこり温める「八戸の横丁」、マタギたちが冬山で猟をする拠点とした「マタギ小屋」、漬物・乾物といった「食文化」など、たくさんのメニューをご用意しました。

地元の方々と共に観光による地域活性化に取り組むとともに、「地域に根ざした本物の素材」を求める新しい旅行需要にこたえ、国内観光の振興を図ります。

「旅市」とはこんな旅です

「地域に根ざした風土・文化」、「地産地消」、「人とのふれあい」をコンセプトに、宿泊施設や昼食箇所、ガイドなどに携わる地元の全ての人が、お客さまに一番おすすめできる過ごし方を提案する旅です。「旅市」という言葉には「人が集う市に新鮮な野菜が並ぶように、地元の人がおすすめする観光素材を集めた」という意味を込めました。

「旅市」冬商品の紹介

- ・ 設定期間 平成21年12月1日(火)～平成22年3月31日(水)
コースにより除外日あり
- ・ 発売日 平成21年11月10日(火)
- ・ その他 詳細についてはパンフレットをご覧ください。



たびいち
旅市
地元発。とれたての感動！

秋に引き続き、当社エリアの津軽から信州まで、13コースをご用意しました各体験メニューのみのお申し込みも可能になりました(一部のメニュー除く)おとなお一人様からお申し込みいただけるコースも引き続き用意しています

「旅市」冬商品の具体例

【例1】「地元風土に根付いた文化と食」を堪能

活気あふれる港町・八戸 横丁旨いものめぐり (P7-8)

八戸といえば東北有数の港町。その地元の人たちが日本一と誇るブランド食材が「八戸前沖さば」です。鮮度と脂のり、さらには、生活習慣病を予防する効果もあり、注目されています。

今回は「八戸前沖さば」の加工工場を見学し、

「さば創作料理 さばみそカツ丼」をご賞味いただきます。

また、八戸を代表する文化のひとつ横丁めぐりもお楽しみいただけます。 さば創作料理 さばみそカツ丼



【例2】名作小説の世界と「地産地消」の食を楽しむ

川端康成の小説『雪国』の世界を訪ねて(P27-28)

水上駅で特急列車から普通列車に乗り換え「国境のトンネル」を通過することから旅は始まります。川端康成が執筆のため滞在した「雪国の宿 高半 かすみの間」での執筆体験や、ゆかりの地めぐりを体験した後は、南魚沼産新米コシヒカリをはじめとした地産地消のお料理をご賞味いただきます。

12月31日まで「新潟デスティネーションキャンペーン」開催中



川端康成が執筆した「かすみの間」

【例3】秘境マタギの里で、マタギ文化にふれる

ローカル線で行く 雪国紀行秘境マタギの里で冬体験(P9-10)

マタギとは、クマなどを捕獲する技術を持ち、主に狩猟を生業としてきた人々です。秋田県の阿仁地区には、そんなマタギ文化が残っています。このコースでは、「かんじきを履いて雪の里山歩き」、「マタギ小屋遊び」や現役のマタギ語りなど、マタギの冬の暮らしを体験できるメニューをご用意しました。



「かんじき」を履いて雪の里山歩き

【例4】地元風土に根付いた素材を地元の方が案内

人々の生活を守り続けた 北アルプスの湧き水と松本水めぐり (P29-30)

松本といえば「松本城」や「旧開智学校」が著名な観光地ですが、「旅市」では人々の生活を今も支えている「水」に注目しました。実は松本は美ヶ原や北アルプスなど周囲の山々から生まれてくる清らかな水を地下にたたえ、その水は「平成の名水百選」にも認定されています。

また、大町市も北アルプスの湧き水が人々の生活を支えます。

今回の旅行では地元ガイドが「水めぐり」をご案内し、

「水のめぐみ」とも言える地元料理をお召し上がりいただけます。



人々暮らしを支える「源智の井戸」

「旅市」パンフレット掲載ページ